

【県人会 北から南から】埼玉県人会



埼玉県人会は創部8年目で、会員80人を超える大所帯。同県出身者が約3割で、東京、千葉、神奈川などの関東圏出身者が多数を占める。

メインとなる活動は、毎年8月、埼玉県朝霞市の「彩霞祭」のなかで、約50のグループが参加して行われる。「関八州よさこいフェスタ」への出場である。

曲はよさこい専門の作曲家に、振り付けはダンス教室を開いていたOBの知り合いからレッスンを受ける。会員は初心者ばかりで、6月から練習を始め、前期試験終了後は1日5時間以上励む。昨年は優秀賞を獲得。今年が入賞を逃したが、「練習は大変でしたが、本番ではみんながまとまり、楽しかった」と出山博美さん(法3・秀明大附八千代高)。相庭玄輝くん(法3・都立両国高)は「ゼロから作り上げていく楽しさ、みんなとの一体感などふだん味わえないことが体験出来た」と話し、実行委員長を務めた丸山絵美さん(法3・市立浦和高)は「よさこいをやって良かった、入会した良かったという気持ちを後輩たちにも伝えられた。大変でしたが、来年も参加したい」と語った。

もうひとつの大きな活動は夏合宿。今年は8月27日から29日まで、約30人で秩父を訪れ、長瀬・荒川でラフティングを体験したり、近くの滝を見学したりなど埼玉の自然に触れた。「埼玉にもこんないいところがあることを再確認した」と鹿沼康之くん(法4・滑川高)。

今月からは長澤大輔新会長(経済2・茅ヶ崎北陵高)を中心に鳳祭の準備に取り掛かっている。今年「ちろりん村」の出店で、「味噌田楽」といれたての「狭山茶」(埼玉県特産のお茶)を販売する予定だ。

(佐山 美貴・文2)

[10月15日/ニュース専修14面]

Jリーグ川崎フロンターレ・武田信平社長が講演 経営学部教授に現場のナマの声



経営学部「マーケティング管理論」の9月20日の授業内で、川崎フロンターレ・武田信平社長の講演が行われた。

Jリーグは地域密着を理念として設立され、ホームタウン制度、サッカー教室開講、小学校へのコーチ派遣などさまざまな形で地域とかわりながら活動している。武田社長は「川崎といえばフロンターレと言われるのが目標。スポーツを通じて街を活性化していきたい」と語り、経営の自立とチームの強化についての展望など、スポーツマーケティングの現場の声を伝えてくれた。

担当の佐藤康一郎講師は「理論だけでなく、『実学を』をコンセプトに企業人の講演を企画しました。今後も危機に直面した雪印乳業と日本ハムから講師を迎え、危機管理のあり方やブランドイメージの回復といった具体的な体験を語ってもらう予定です」と話している。(同講演はケーブルテレビ東急itscomで9月24日、放送された)

[10月15日/ニュース専修14面]

【緑地帯】食べないわけにはいかない！

今年の夏は暑かった。とてもとても暑かった。その暑さも、若さを誇る学生のみなさんにはさほどのダメージを与えることもなかったろうが、四十路を越えた私にはひどくこたえた。おかげで夏休みの研究計画も予定通りには進まなかった。(それはあなたの意思が弱いからでしょう、暑さのせいだけじゃないんじゃないの、という声が聞こえてきそうだが。)

しかし、である。今や吹く風も爽やかな秋である。天高く馬肥ゆる秋である。何十年後に明るく元気な、しかも美しい高齢者でいるために、失った体力を回復すべく、さあ食べるぞと思ったらなにやら世間が騒がしい。

昨年来のBSE問題に加えて、野菜や果物にも問題ありというのである。

残留農薬が心配なのは輸入野菜だけかと思っていたら、国産も危ないらしい。昨日山形のりんごが危険だと報道されたと思ったら、今日は東京のきゅうりがおかしいといった具合である。

みなさんの中には親元を離れて自炊、スーパーにもよく行くよという人が少なくないと思うが、「保存料は一切使用していません」という表示を頼りに食品を選んだ経験はありませんか？今やその表示の信頼性さえも揺らいできている。

しかし、人間食べないわけにはいかない。少しでも安全な食べ物を見分ける術を身につけて、おいしい食事を楽しみつつ、健康を維持したいものである。でもその前に学生のみなさん、3食きちんと食べるように心がけてくださいね。それこそが、健康の基本だそうですよ。

〔10月15日/ニュース専修14面〕